



にじのはし幼稚園 園だより



令和 7 年 10 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田 美弥

秋分の日が過ぎ、時折吹く心地よい風に秋の気配を感じます。「暑さ寒さも彼岸まで」という言い伝えを実感する日々です。9月に入ってから昨年を上回る暑さが続き、外での活動が制限されていまして、日々の保育の中でお台場学園のアリーナを使わせていただけるのが本当に有難かったです。いつもありがとうございます。

大雨が降った日の翌日には涼しい日もあり、お台場海浜公園に出かけてリレーをしたり、お台場学園校庭のトラックを何周も走ったりした日もありました。体を動かすのが気持ちいい季節になってきて、子どもたちは、外でも中でも心と体を動かして遊びを楽しんでいます。

本園は、健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。

健康な心と体の育成に向けて、心と体が動く心地よさや楽しさの体験・基本的な動きの獲得を重視しながら、発達に即した運動遊びや戸外遊びの工夫を行います。

(幼稚園経営計画 4 経営の重点 今年度の主な取り組み(4)② より)



子どもたちは、体を動かして遊ぶことが大好きですが、それは運動的な遊びだけではなく、表現的な遊びもあります。何かになりたいという強い思いは、遊びの中でも発揮され、憧れのキャラクターを演じたり、なりきったりしながら遊ぶ姿が見られます。中には、体を動かすよりも室内での遊びが好きだというお子さんもいるかもしれませんが、例えば人形やミニカーを使った遊びでも、それを動かしながら遊ぶ姿を思い浮かべていただくと、イメージしやすいかと思います。教師はその子に合ったやり方で、体を動かせるよう働きかけています。

9月27日のにじっこ運動会では、5歳児が幼稚園の最高学年として、司会をしたり係の仕事をしたりします。一人で、そして友達と一緒に取り組む姿は、下学年の憧れです。憧れは、真似ることに繋がります。自席で応援しながら、動きを真似ている姿は微笑ましいものです。思わず体が動いてしまう姿は、主体的な学びの姿の芽生えとも捉えられます。学ぶという言葉は真似るが変化したという説もあるそうです。子どもたちは毎日幼稚園で遊びを中心とした生活をする中で、様々なことを学んでいます。外からは変わらない日々に見えるかもしれませんが、一日一日の積み重ねが着実にあり、特に意識の変化は大きなものが見られます。行事の前の一週間で子どもたちがぐんと成長したように感じることもあるのは、その積み重ねが自信や共に頑張る仲間への信頼につながっているからではないかと思います。

遊びを中心とした幼児教育の実践により、子どもたちが主体的に環境に関わる中で、自分なりのめあてをもつこと、様々な試したり工夫したりして体を動かし、色々な動きを獲得すること、繰り返しの中で運動能力や技術を高め、充実感や達成感を味わうことなど、心と体を一体的に育んでいく2学期です。教職員一同、適切な環境を整えながら、健やかな成長を促せるよう子どもたちとかわかっていきます。

